

大通公園の再整備——歴史と緑を守り、未来へつなぐために 12月06日 建設委員会 長屋市議



2024年12月6日に開催された建設委員会では、大通公園の再整備を巡り議論が行われました。

同公園は市民や観光客に親しまれる札幌の象徴的な存在であり、そのあり方を見直す議論が進められるなかで、長屋市議は、大通公園が1871年に中心部を北の官庁街、南の住宅商業街に分ける火防線として整備された歴史について触れ、その継承について、「公園両サイドの並木の継承の必要性を質問しました。市側は「将来にわたっても継承すべき大切な要素の一つ」との認識を示しました。さらに長屋市議は、地球温暖化の有効な対策の一つとして、樹冠を拡大させ、日射を抑制させる方法を紹介。これにより、日陰が作られることによる、冷却効果が重要として、都市の緑化状態を測る、樹

冠被覆率の活用について質問。高橋みどりの推進部長は、高木に関して都市の緑化状態を把握する数値として活用したいと答弁しました。長屋市議は、樹冠被覆率を30%に引き上げることで暑さに起因する死者数を約4割減らせるという研究結果を紹介し、きちんと大木を育てるよう具体的な取り組みを求めました。

また、札幌の風物詩であり、若い市民からも札幌の象徴となっている「とうきびワゴン」の存続についても言及し、「観光客にも親しまれている象徴的な存在であり、これを含めた札幌の歴史や景観を受け継ぐことが重要」と市に求め、年齢、性別、国籍を問わず、すべての人が利用しやすい空間の整備を進める必要性を強調し質疑を締めくくりました。

健康格差への対応は十分か——経済的要因と社会環境に踏み込まない健康計画 12月09日 厚生委員会 さとう市議



2024年12月9日に開催された厚生委員会では、「健康さっぽろ21（第三次）」（案）について議論が行われ、佐藤委員が質問に立ちました。本計画案では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を主要テーマとしていますが、その具体的な取り組みや課題について市の見解が問われました。

佐藤委員は、健康格差に関する国の取り組みや経済的要因の影響について触れた上で、「健康サッポロ21第3次では、健康格差の縮小についてどうお考えか伺います」と質問しました。これに対し、市の担当者は「健康格差を、疾病や障害の有無、経済的要因など性別差や年齢差以外の要因によって生じる健康状態の差と定義している」と説明し経済的要因も含まれていることを認めました。

さらに佐藤委員は、日本福祉大学の調査を引用し、所得の低い層で健康行動に格差があることを指摘し、「本市としての取り組みでも社会的経済的要因に着目し、社会環境の質の向上という面の留意が必要だと思っておりますが、健康格差縮小に向けての取り組みについて伺います」と質問しました。これに対し、市の

担当者は、「幅広い市民にアプローチするため、健康作りの機会や情報を提供する環境作りが重要、誰もが気軽に参加できるイベントを通じて、市民の健康行動を促す」と具体策を挙げましたが、自主的に健康に取り組める市民を対象とするものであり、経済的な制約や時間的な余裕がない層に愛する支援としてはあまりに不十分です。

佐藤委員は、本計画案での第2章で触れられている社会的背景には、経済的な問題が反映されていません。第3章にも同様に記載がなく、社会的経済的要因による格差について具体的に記載する必要があります。こうした視点を各取り組みに反映させることが、健康格差の縮小、そして健康寿命の延伸において重要である」と強調しました。